

日本声楽発声学会 学会通信 第54号

2025年(令和7年)10月

◆ 発声は音楽に従属する

会長 佐々木正利

歌唱における楽器、すなわち人の声は、音楽の演奏機関でありこれを運用していくのは演奏者の技術です。つまり、歌唱は人の声という演奏機関を用い、それを運用する技術によって表現されるものであると言えます。この技術の背景となるものは、演奏者の楽器に対する理解、解釈であって、その仕方は演奏者の音楽に対する教養と深く繋がっているのです。

音楽表現の優劣は演奏技術の優劣に直結し、表現された音楽の価値観には多面的要素が複雑に絡んでいるのは自明のことですが、演奏技術が必要以上に誇張、重視され、ひいては演奏即技術といったような誤謬を誘発し、演奏家や教育家の多くをテクノロジー信奉の道へと走らせてしまっているはいけません。あくまでも、音楽表現機関を運用していくのは技術ではなく演奏者自身、即ち人間であるということを忘れてはいけません。技術は、演奏者の表現における手段として存在するものであり、技術への考え方が、メカニクな知識の追求へと傾倒していき、結果的に方法論を育成することを目的としてはならず、あくまでも技術はフィルターであり、それを通して出ずる、演奏家の人間性に立脚する音楽性こそが肝要なのです。換言すれば、技術はそれを運用する“人”によって、その価値が決定されるのです。あまつさえ技術が高度になればなる程、それを駆使できる人間性と応用力が要求されることになります。そして、人間と技術のバランスが調和した時にこそ、最も説得力のある音楽表現となって、聴く人をして感動させることができるのではないのでしょうか。その総合された力を、真のテクニックと呼ぶのだと私は思います。演奏家の「家」とは、思想、哲学をもった音楽実践者という意味合いが深く、高い人間哲学と、それに基づく音楽観に裏付けられた技術こそ、一流演奏家の必須条件であるとは言えないのでしょうか。

発声を追究することは声に携わるすべての従事者にとって必要なことです。しかし、それが研究の最終目的であってはならないと私は思っています。追究し獲得できた発声技術を持ってその先何を表現するのかが問われます。医者には病人を治療するために手術の技術が必要なのであって、その技術のために手術をするわけではありません。私たち役員の任期もあと半年余りとなりました。学会が持続的に発展していけるよう残された期間、身を粉にして働きます。多種多様な表現を可能ならしむ発声原理の解明と実践法開発に向けて協働できるよう、会員の皆さまの積極的な関与を心から期待しながら。

◆ 第116回例会・第61回総会終了

2025年6月1日(日)、東京藝術大学にて「第116回例会・第61回総会」が開かれました。参加者は、正会員、臨時会員合わせて117名でした。内容についてはホームページおよび2026年5月発行予定の『声楽発声研究 No.16』に掲載されます。総会の審議結果等は、送付済み資料をご確認ください。→例会アンケート結果はP.3

特集 理事が描く《発声学会の未来》Ⅱ

第 53 号に続いて、「10 年後の発声学会」と題する理事からのメッセージをお届けします。「10 年後」あるいは「未来」の発声学会への希望…託すもの…理事からのメッセージです。

いつも疑問に思っていること。

◎「発声が悪い」と「歌が音楽的でない」はイコールですか？

◎「良い発声」って何ですか？

◎人体の生理に照らし合わせて、発音原理（子音や母音のことではなく、音を発するという）に適った発声は良い声ですか？

これらを受けての結論。

◎悪い発声だと自他共に思っている人たちが後ろめたさを感じずに声の話、歌の話をしに参集する会にしたい。人の欠点をほじくり出したり、それを指摘して優越感に浸ったりせず、歌や台詞の本質に昇華した多彩な情報、意見交換の場としたい。

◎一流の歌手や音大の教授が気兼ねなくディベートできる環境作りに励みたい。（佐々木正利）



3期9年間を理事として活動してきました。その経験から学会の将来の活動の中・長期的に考えて以下に述べます。会員の減少が明らかであることから、ITを駆使した社会への情報発信。学生への論文応募機会や奨学金制度の設置。社会的貢献を目指して国内外の学会との連携。教育機関への講師派遣。声楽研究資格制度の設置。学会支部の開設等。我々理事は、手弁当で例会や研修会の立案と運営、学会誌と通信の編集・発行等に汗を流し、年間20回以上の会議（zoom）に出席し、同時に各自の演奏や研究を進めなければならず、今は本当に良くやってきたという感慨深い気持ちでいっぱいです。自戒の想いも込めて、理事の皆様には今後も会員の意見に耳を傾け利己的にならず、共感を呼べるような運営を望みます。（齊藤祐）

私が思い描く発声学会の未来像は、今の会員数が10倍に広がり、多様な人々が集う姿です。プロの歌手や学生、指導者、器楽奏者、音楽教育・音楽学に携わる専門家たち。さらに音声生理学や工学、教育工学、脳科学、IT、AIなど関連分野の研究者が一堂に会し、それぞれの専門性を生かした発表や議論が交わされる、そんな場を夢見ています。分野や立場を越えて自由に意見交換ができ、率直な質問が歓迎される雰囲気や育まれ、学生部門では若手が挑戦して先輩から貴重な助言を得る。優れた成果には“学会賞”が授与され、国際学会との連携も進み、海外からゲストスピーカーを迎えてバンケットで盛り上がる！

このような未来を描きながら、これからも学会の発展のために力を尽くしてまいります。（池田京子）



会員は10代から100歳を超える会員まで幅広い年齢構成からなる。会員は学会を通じて異なる音楽ジャンル、世代、学閥の会員と出会うことにより、新たな研究やアイデアが湧き上がり、研究は更に学際的になっている。発声学会のアプリが開発され、事務連絡や会費納入、例会プログラム閲覧、会員間のコミュニケーションなどアプリの操作で完結する。例会や研修会にはオンライン開催と保育サービスがあり、子育て世代の会員や移動が困難な会員も参加しやすい。発声学会が指導メソッドを構築し、それをもとにした音楽教室を運営、そこでは入門からプロフェッショナルまで、学会が認定した指導者からオンラインや対面で指導が受けられる。（森井佳子）

- ・なるべく広く多くの方に参加・経験してほしい!
- ・まずは、何より「若い世代」の会員を増やしたい!
- ・各音大の学生が多数参加できるプログラムを作る!
- ・各ミュージカル団体が参加できるものを作る!
- ・ポップスの分野も含めて、歌を学んでいるものは無条件に会員になれるようにする!(年齢・性別・国籍問わず)
- ・文字通り、老若男女全ての歌を学ぶ人たちに参加してもらおう!(子供も高齢者も全て)
- ・各音大の大学院の学生に論文・研究発表の場を提供する!
- ・国際的に広げたい!
- ・アジア・ヨーロッパ・アメリカの主要国に限らず、世界中の国々に支部を作る!
- ・そして世界各地で例会を開催する!
- ・発声に特化した専門学校的な学校のようなものを作る!(やはり年齢・性別・国籍問わず) (吉田浩之)

ドアを開けるとそこは10年後の日本声楽発声学会だった。

学会のHPから様々な研究に触れ、更に新しい知見を得たいと思い、当学会に入会する若い人たちが増えてきたように感じられる。

AIの発達により、分析処理能力が速くなり、「発声」分野においても、多様な声についてのデータが集積されてきている。あとは、声を扱う方々の実践のみである。「いつの時代も、“ローマは一日にしてならず”である」と誰かがつぶやいていた。

研究発表や研究演奏の件数が、10年前と比べ増えてきたのが明るいニュースである。事務局サイドもここまで継続してきて、ホッと一息ついている。

さあ、例会が終わりに近づいてきた。

ドアを閉め、今日も一日、頑張ってみようと思う。

(渡辺修身)

2号にわたる特集記事の中に、理事の想いや素顔を垣間見ることができたでしょうか。会員の皆さんの中にも「発声学会の未来」が描けますように。

◆ 第116回例会アンケート結果

16名の方から回答をお寄せいただきました。ありがとうございます。

【プログラム構成について】

お話がとても興味深かった／声楽家の歌を聴きたい／とても立派で充実した会になってきた／事前学習ができればもっと有意義な例会になると思う。午前の発表はより理解できるし、午後のレッスンは曲目がわかっていれば、楽譜の用意もできるので／現役声楽家の演奏とお話は毎回聞きたい

【シンポジウムについて】

質疑応答の時間をもっと取って欲しかった／3人の研究の特徴が出ており、結論までいかなかったが、経過としてはたいへん興味深いものであった／日本歌曲で独自の世界を築いておられる青山先生、日本を代表する世界的なアーティストである鮫島先生のお話をもっとお聞きしたかった／先生方のトークがとても貴重で興味深くあつという間だった／もっと突っ込んだ内容を期待していた／日本歌曲への造詣深い方々の価値あるお話が聞けて良かった／みなさんのご経験を細かく聞くことができて本当に楽しかった

【今後の学会運営について】

良い歌をもっと聴きたい／シンポジウムは毎回やってほしい／公開レッスンの場合のマイクは、持つタイプではなく、胸に付けるタイプを用意してほしい／実践的なこと(演奏)のボリュームがもう少しあっていいかと感じた／SNS等での案内もお願いしたい

■■ 追悼 清水喜承先生 ■■

長年にわたり当学会の運営にご尽力くださった清水喜承先生が、2024年12月22日、86歳で急逝されました。

1984～1986年 監事

1989～2009年 理事

2002～2011年 学会誌(現・声楽発声研究)編集委員

2010～2018年 監事

2020年～ 相談役

[研究発表等]

1987年 夏季研修会 公開レッスン「呼吸法」

1989年 夏季研修会 公開レッスンとお話「詩人の恋」、シンポジウム「発声の諸問題」

1990年 研究発表「話し声と歌声と」

1993年 第6回定期演奏会(11月21日 旧奏樂堂)出演

● 清水喜承先生をお偲びして

永井和子(顧問)

昨年(2024)末、日本声楽発声学会の友人からお知らせを受け、清水喜承先生が急逝なさいましたことを伺い、驚きとともに先生の学会でご活躍時の元氣なお姿を思い出してお偲び致しました。

私は関西の出身者で、あまり東京方面でご活躍の音楽家を存じませず、失礼ながら、昭和49年(1974)に当発声学会の会員となりましてより、理事としてのお役目を頂戴するまでに10年以上の歳月がありながら、当初、理事長でいらっしゃいました丹羽勝海先生以外、殆ど存じ上げない失礼者でございました。

平成11年(1999)理事の推薦を受けまして、その後、必ず月に一回理事会は開かれ、その席で清水先生を知ることになります。その席では、先生は書記をご担当なさっており、そこで知りました清水先生への印象は、誠に静かで、穏やかな「紳士」と云ったタイプの先生でございました。

既にそのころは学習院を定年退職し、名誉教授のご身分でいらしたと記憶致します。当学会のある例会で、私は一会員として研究発表をすることになりました。その発表後、その節の原稿をまとめ、その年の学会誌(第34号)に掲載して頂く慣わしにより、文面(テーマ=“目で見る声”)をまとめて提出いたしました。清水先生は、査読のお役目を受けておられたのでしょうか。電話がかかって参りました。「国際的ピッチ(標準音)についてですが、442 Hz と書いておられますが、現在の国際的ピッチは、440 Hz で統一されています。ご訂正なさった方がよいのでは？」私は、早速確認し訂正致しましたことは云うまでもありません。相手を傷つけない優しい言葉遣い、温かで柔らかなお声からご人格がにじみ出ていました。

もう一つ、当発声学会の「核」を成してくださいました故米山文明先生(耳鼻咽喉科医学博士)が、「声の不思議・発声のしくみ」と題した、解説付き(3巻に渡って監修)のビデオテープがあります。その中に、清水先生の発声の実声サンプルが録画されております。柔らかな喉使いと横隔膜運動の関連が録画されており、米山先生の解説と共に私は何度となく聴き、発声訓練のお手本とさせていただきます。

柔和にして、真面目に研究に取り組まれる学者タイプの清水喜承先生、日本声楽発声学会の宝でございました。残念でございます。どうか、安らかに眠りくださいませ。

ご冥福をお祈り申し上げます。

● 追悼 清水喜承(よしつぐ)先生

川上ひろみ(会員)

昨年3月に川上が他界しましてから、そのことを清水先生にお伝えしないまま、先生のご訃報に接することとなりました。まだ信じ難く失意の中におります。

清水先生は川上の5歳上になられますが、発声学会では川上の方が3年程早く入会しておりました。先生は当時からずっとスリムな体型もお変わりにならず、ダンディのままでいらっしゃいました。川上が発声学会の事務局長をお引き受けしました頃から、何かに付けて清水先生にご相談させていただく機会が多くなり、いつも電話でお話をしておりました。ご相談というよりも川上が一方向的に話すことを、きちんとお聞き下さったという感じでした。電話が終わりますと川上は「いい先生だな～」と申しましてモヤモヤが消えた表情をしておりました。話をお聞きいただきながら自分の中で整理が付きホッとしていたのだと思います。その後清水先生から「あの件はどうした」とお気遣いのお電話をいただくこともあったようです。勿体無くも正に川上の相談役の先生でいらっしゃいました。

時折ポケットの中の大切なお写真を拝見したこともありました。お若い頃のお写真、お孫さんのお写真、学会の会食会のお写真等々。お見せくださる時の先生のお恥ずかし気なお優しい表情は忘れられません。また、学習院の、当時中学生であられました天皇陛下に音楽の授業を教えていらした清水先生が、ご本をお貸しになられた折、お母様の現在の上皇后様から直々お礼のお電話をいただいたお話もして下さいました。いつも淡々としていらっしゃる先生とは違ったご一面に接することができましたことも嬉しかった思い出です。

きっと今頃は、彼方の世界で川上と対面し、“どうしてここに居るの”と驚かれているかも知れません。また、米山先生、小林先生と発声談義を交わされているのではと。清水先生が長い間学会誌の編集委員をなさいました最後の「声楽発声研究 No. 2」の編集後記に、『新しい誌名に、やがて日本の声楽発声をリードする誌面に成長して行くものと確信しております』とお書きになっておられました。

先生、どうぞお安らかに。これからも発声学会をお見守り下さいませ。

清水先生が書かれた文章とお写真が載っております。

学習院アーカイブズ ニュースレター vol.8 (2016.7.15)

足踏式竪型自動ピアノ ～目白「清明寮」で寮生達を慰めた～

学習院名誉教授 清水喜承

<https://www.gakushuin.ac.jp/houjin/archives/pdf/08.pdf>



清水喜承先生は、学習院中・高等科音楽教諭を定年まで勤められたのち学習院名誉教授となられ、また、TBS こども音楽コンクールでは、地区大会から文部科学大臣賞選考会まで、各地で審査員を務められました。亡くなられる直前、2024年12月21日の「東日本優秀演奏発表会Bブロック」プログラムにも審査員として名を連ねておられ、「声楽」のみならず「音楽教育」の分野でも大きな存在でした。

ご冥福をお祈りいたします。

2025 年度夏季研修会終了

2025 年 8 月 25 日（月）、日本福音ルーテル東京教会において「2025 年度夏季研修会」が行われました。今回は諸事情により、例年の 2 日間から 1 日開催へと短縮されましたが、中身の濃い充実した研修会となりました。



午前中の「音声生理学講座」の演題は、竹田数章理事による「音声生理学から探る多様な発声技術と歌唱法のメカニズム」。音声生理・解剖学の基本に始まり、さまざまな発声法における解剖学的なメカニズムなどを、座長である佐橋美起理事のベルカント実演を交えるなどして、わかりやすくご説明いただきました。

事前に準備した座席が足りなくなるほどの参加者数で、基本的な知識のふりかえりと新たな知見の吸収の場が求められている、と感じる講座でした。



午後の B 講座は、戸山俊樹氏の「ドイツ歌曲公開レッスン」です。公募による 3 名の受講生～山口晃永（Bar）、大月理央（Sop）、伊藤陽平（Ten）～は、いずれもシューマンの作品を選択、音楽表現に必要な発声・発音などをていねいにレッスンしていただきました。

発音についてのレクチャーの中で、脳内における子音と母音の処理は西洋人と日本人で異なる、とのお話があり、子音と母音が一体化したカナ文字で育ってきた日本人にとってドイツ語をはじめとする外国歌曲を歌うことがどれほどむずかしいか、トレーニングが必要か、納得させられました。これはもちろん、「ことばを伝える」ため、日本歌曲を歌うときにも必要な観点であるはずです。また、どこか一点を見つめるのではなく「半眼」で、というアドバイスもありました。視野を広く取るとともに内面にも意識が向く状態で歌ったときに、受講生の声はふわりと自由度を増したのは驚きでした。他にも、硬直せずリラックスした状態とは、バランスボードに乗っているような感覚、歌うときの喉頭を下げたあくびをするような状態は、つまり嚥下とは逆の力が働いている状態である、イメージに身体が反応する、などの一言一言が、すぐに実践できる貴重なアドバイスであり、充実した 2 時間となりました。





続くC講座、「現代日本の作曲家シリーズⅩⅢ」の講師には、合唱コンクール課題曲などを多く手掛けておられる上田真樹氏をお迎えしました。合唱団「粋声」有志15名によるソロ、重唱、同声・混声合唱を交え、自ら伴奏をしながらの講演は、「詩とうた」についてテンポよく進んでいきます。詩人の世界、詩の持っているイメージを「うた」によって聴き手に届けたい、という作曲への想いが上田氏の作品にこめられていることが、実演を通して十分に感じられました。

たとえば、同じメロディでも言葉によって異なる和声で変化をつけて音楽に色彩感を与える、日本語のイントネーションと音楽の進みたい方向を合わせつつ音楽を構築していくなど、作曲にあたっては細やかな工夫を加えられているそうです。

「詩が作曲家の身体を通して作品となり、作品は演奏家の身体を通して音楽となり、聴く人の身体と心に届く」。この言葉は、合唱に限らず声楽作品すべてに通じることで、演奏家が負うべき役割の重大さにも気づかされます。「自然に歌いたくなるうたを書きたい」という上田氏の今後のますますのご活躍が期待されます。



暑い夏の一日は、音楽への熱い思いを抱きながらあっという間に過ぎていきました。アンケートには2名のご回答をいただきました。ありがとうございました。

佐橋氏のデモンストレーションがあって良かった／作曲家のお話と合唱団の実演のバランスが良かった／平日1日のみの開催だと参加しやすい

来年度の夏季研修会、また今年度開催できなかった「歌の集い」については、今後理事会で検討のうえ、お知らせいたします。なお、2025年夏季研修会講座の内容詳細は、2026年5月発行予定の『声楽発声研究 No.16』に掲載されます。
(広報部・入川)

◆ 第118回例会、第119回例会・研究発表募集

2026年5月、および2026年11月に開催予定の例会における研究発表を募集しています。

内容：研究または実践の口頭発表

申込：発表題目と発表者氏名を明記した発表概要（1000～1200字）を学会事務局宛て提出

応募締切：それぞれ2025年11月、2026年5月末日

例会は、原則として5月と11月の最終日曜日の開催ですが、会場の都合等で変更になる場合があります。最新情報は、ホームページでご確認ください。

◆ 第117回例会のお知らせ

下記のとおり、第117回例会を開催します。

2件の研究発表に加え、会員の皆さまとのフリートーキングの時間として「学会サロン」、午後は特別講演、現役声楽家の演奏とお話、と盛りだくさんのプログラムとなっておりますので、ぜひともご参加ください。

=====

日時：2025年11月29日（土）9：55～16：30

会場：東京藝術大学

プログラム

A 研究発表

1. 斉田晴仁・斉田正子

日本の近代音楽黎明期の日本歌曲研究

山田耕筰の肉声の音響分析から声楽発声指導を検討する“からたちの花”

2. 森 幹男・梅村憲子

「頭の後ろを意識して声を出す」発声指導の効果について

B 学会サロン

「これからの学会の在り方を考える」

C 特別講演

中橋健太郎 左衛門

「日本オペラ界の未来について～裾野を広げる為に～」

D 現役声楽家の演奏とお話

高橋薫子（ソプラノ）

詳細は、同封のチラシおよびホームページをご覧ください。



◆ 新入会員紹介

正会員としてお迎えした方のうち6名から、自己紹介のご投稿をいただきましたのでご紹介します。

(50音順・敬称略・①略歴②抱負など)

○ 伊藤 陽平 (いとう ようへい)



① 岩手大学教育学部学校教育教員養成課程卒業、同大学院教育学研究科修了。

現在、岩手県の平泉町立平泉中学校音楽科教諭。

② 夏季研修会のドイツ歌曲公開レッスン受講をきっかけに入会させていただきました。学会での活動を通して、皆様方から声楽発声や音楽について深く学び、中学校の音楽科教員として、また演奏者としてレベルアップしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 蒲谷 昌子 (かばや まさこ)



① 東京芸術大学器楽科ピアノ専攻卒業。1994年から渡伊、声楽を学ぶ。新国立劇場及び付属研修所ピアニスト等を経て現在、(公財)日伊協会理事、(一社)芸術文化グローバルワークス理事長

② 様々な見地から「声」を学ばせていただき、その仕組と表現の魅力にさらに触れたい、と楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 後藤 純子 (ごとう じゅんこ)



① 武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業、同大学院音楽研究科(修士)声楽専攻修了。二期会会員。

② 声楽を始めてからずっと自分の発声に迷いがあり、自分に合った正しい発声はどういうものなのかを考えながら歌の勉強を続け、演奏活動をしています。昨年の例会に臨時会員として参加させて頂きました際、専門性の高い多角的な視点からの声や歌唱についての研究発表等がとても興味深く、今年度より入会させて頂きました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

○ 後藤 勇哉（ごとう ゆうや）



① 大手芸能事務所養成所を主席卒業（筆記）後、都内音楽スクールにて勤務。新宿校舎チーフ・講師管理 / 研修チームチーフを歴任。海外のボイストレーニングメソッドである「Vocology in Practice（注：SLS の旧マスターコーチたちにより立ち上げられた）」および「Estill Voice Training」の両指導資格を日本人唯一保持。また、イギリスに本部を置く Vocal Health Education より「Vocal Health First Aider」として日本人で初めて認定を受ける。現在は、自身のボイストレーニングスタジオ「the Voice

Expert」を設立し、プロアーティストをはじめ、声に悩む様々な方へ日々多数レッスンを実施している。

② この度は、入会をお認めいただき、心より御礼申し上げます。プロフェッショナルな皆様より、多くのことを学ばせていただき、微力ながら日本の音声教育の現場で活動をしていきたいと考えております。至らぬところばかりでございますが、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

○ 永田 ゆかり（ながた ゆかり）



① フェリス女学院短期大学。声楽は、合唱から始まり、現在ドイツ語・イタリア語・フランス語の歌曲、オペラアリアを歌っています。

② 発声学会には、米山文明先生の頃から在籍していましたが、コロナ流行で退会しました。今回再入会です。声を大切に、色々な角度で広く深く勉強したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 山下 未紗（やました みさ）



① 東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修士課程独唱専攻卒業。サントリーホールオペラアカデミー修了。現在は個人指導の他、声楽家としてオペラや宗教曲のソリストとして演奏活動を行っている。

② この度は入会の機会をいただき、誠にありがとうございます。自身の演奏や声楽指導を通しつつ、様々な専攻で研究なさっている会員の方々と関わる事で情報交換の機会となり、より発声研究の発展に繋がることを楽しみにしております。

日本声楽発声学会へようこそ！ 今後のご活躍をお祈りしております

当学会では、随時新入会員を募集しています。正会員1名の紹介とともに入会申込書をご提出いただき、理事会で承認後正会員として登録されます。学会の活動に興味を持っている方が身近にいらっしゃいましたら、ぜひお声かけください。

詳細は事務局までお問い合わせください。



///理事会動静///

【声楽発声用語集改訂検討委員会】

前委員長 西浦美佐子理事の退会に伴い、以下の新体制となりました。

委員長：田中昌司

副委員長：佐々木正利

委員：上杉清仁、梅村憲子、三枝英人、鈴木慎一朗、竹田数章、渡辺修身

【広報部】

ホームページの管理会社を変更し、10月1日よりリニューアル公開しています。今後、最新情報の掲載に加え、過去の情報もさかのぼって追加掲載予定ですので、ご活用ください。



● 理事会記録（2025 年 4 月～10 月）

理事会は、会長の招集により適宜開かれ、事業や刊行物の進捗状況確認、新たな提案の審議、新入会員の承認などを行っています。（欠席理事からは、事前に委任状およびご意見を提出していただいています）

	日時	場所	主な議題
第13回	2025 年 5 月 19 日（月） 19：00～21：00	Zoom 佐々木、齊藤、竹田、森井、 入川、梅村、三枝、鈴木、 田中、渡辺	第116 回例会・第61 回総会につ いて／新入会員承認について 他
第1回	2025 年 6 月 1 日（日） 17：30～19：00	いつもの会議室上野店 佐々木、池田、齊藤、竹田、 森井、入川、上杉、梅村、三 枝、佐橋、鈴木、渡辺	2025 年夏季研修会について／ 会則、役員名簿修正確認／新入会 員承認について 他
第2回	2025 年 6 月 5 日～7 日	メール審議	声楽発声用語集改訂委員会メンバ ーについて／2025 年夏季研修会 について／第117 回例会日程につ いて
第3回	2025 年 6 月 17 日～20 日	メール審議	2025 年夏季研修会について
第4回	2025 年 6 月 23 日（月） 19：00～21：00	Zoom 佐々木、池田、齊藤、竹田、 森井、入川、上杉、渡辺	2025 年夏季研修会について／ 学会通信第54 号について 他
第5回	2025 年 8 月 4 日（月） 19：00～21：00	Zoom 佐々木、池田、齊藤、森井、 竹田、入川、梅村、三枝、 鈴木、田中	2025 年夏季研修会について／ 第117 回例会について／ホームペ ージリニューアル状況報告 他
第6回	2025 年 9 月 29 日（月） 19：00～21：00	Zoom 佐々木、池田、齊藤、竹田、 森井、上杉、梅村、三枝、 佐橋、田中、渡辺	第117 回例会について／理事選挙 について／新入会員承認について 他

● 執行部会記録(2025 年4月～10月)

	日時	場所
第12回	2025 年 4 月 22 日 (火) 19:00～19:45	Zoom
第13回	2025 年 5 月 1 日 (木) 19:00～21:00	Zoom
第1回	2025 年 6 月 4 日 (水)	メール審議
第2回	2025 年 6 月 9 日 (月) 19:00～21:00	Zoom
第3回	2025 年 7 月 25 日 (金) 19:30～21:00	Zoom
第4回	2025 年 8 月 29 日 (金) 20:00～20:50	Zoom
第5回	2025 年 9 月 21 日 (日) 19:00～21:00	Zoom
第6回	2025 年 10 月 14 日 (火) 19:00～20:30	Zoom

事務局からのお知らせ

- ◎「学術論文オープンアクセス化推進政策」に則り、かねてより準備を進めていた J-Stage への論文掲載登録が、このたび完了しました。今後、過去の発行分も含め『声楽発声研究』に投稿された査読付き論文を順次公開します。公開を希望されない場合は、事務局までご連絡ください。
- ◎研究発表、出演者募集などの詳細は、学会通信、ホームページにてご案内しています。ご確認のうえ、奮ってご応募ください。
- ◎例会、夏季研修会では、毎回アンケートを実施しています。アンケート結果は学会通信、ホームページでご報告するとともに、理事会での議題にも反映されますので、ご協力をお願いいたします。
- ◎各種連絡を確実にするため、メールアドレスのご登録をお願いしています。未登録の方は、事務局までご一報ください。
- ◎会費の納入期限は毎年5月31日です。お忘れなくお願いいたします。

編集後記

数年にわたって検討を重ねてきたホームページリニューアルが、ようやく実現しました。とは言っても、まだ器ができたところです。中身の充実はまだこれから…、運用方法についても検討と試行錯誤を続け、次世代に引き継いでいけるよう、また会員のみならずたくさんの方に訪問していただけるサイトとなるよう改善していきたいと考えています。(入川)

日本声楽発声学会事務局 佐々木 徹

e-mail:info@jars-voice.org

Tel/Fax:03-6804-0626

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-14-4

振替口座：00170-0-119920

日本声楽発声学会 HP

<http://www.jars-voice.org/>



学会通信第 54 号

2025 年 (令和 7 年) 10 月発行

発行者：日本声楽発声学会

編集者：入川めぐみ 上杉清仁

齊藤祐 森井佳子